

## II 近代日本とアジア 1. 第1次世界大戦と日本

1914年に発生したヨーロッパを中心に第一次世界大戦が発生、日本は日英同盟を理由にドイツに宣戦、中国・山東半島のドイツ租借地などを占領しました。さらに世界の目が戦争に集中しているのを理由に、中国に二十一か条要求をつきつけ、日本の権益を拡大しようとしました。こうした日本の態度は、中国の人たちだけでなく、アメリカの反発も巻き起こすことになりました。こうした中国の人たちの不満は、1919年に、第一次大戦の結果結ばれたベルサイユ条約に反対し、日本製品の不買などを訴えた五四運動という形で爆発することになります。

日本では、1912年、議会を無視する桂内閣を大衆運動の力を背景に辞めさせるという大正政変が発生、国民の要求を政治に反映させるべきだという風潮が高まりました。こうした風潮を大正デモクラシーといいます。

日本は、第一次大戦にロシア革命が発生すると、他の列強とともにこれを妨害するため、大軍を派遣しました。これを、シベリア出兵といいます。しかし、これによって発生した米の値段の高騰に反発した民衆が日本全土で暴動を起こしました。これを米騒動といいます。こうしたなかで、原敬が、日本初の本格的な政党内閣をうちたてました。

また、平塚雷鳥が青鞥会を結成、市川房枝らも女性の権利の拡大を求めました。明治に入って身分制度が改められてからも、就職や結婚などで差別を受けてきた人々は全国水平社を作り、差別をなくす運動に立ち上がりました。このように、人々の政治参加を声が強まり、1925年、成年男子の全員に選挙権を与える普通選挙法制定に結びつきました。

しかし、普通選挙法と同時に、治安維持法という法律がつくられ、政府は人々の自由な考えを取り締まり、だんだん日本は戦争の道に進んでいくようになりました。

### a, 大正政変

日露戦争がおわると、伊藤・山県とそれぞれ結んだ政友会総裁で公家出身の[1 西園寺公望]と、藩閥官僚勢力を代表する[2 桂太郎]が交互に内閣を担当する[3 桂園]時代をおかえた。このなかで西園寺が塚利彦らの[4 日本社会]党の結成を認めるなど進歩的な性格を持っていたのに対し、桂はこの政党を禁止し[5 大逆]事件で[6 社会]主義者を厳しく弾圧した。

1911年第2次西園寺内閣が成立、行財政の整理をすすめようとしたが[7 二個師団増設]問題で陸軍と対立、陸軍は[8 軍部大臣現役武官制]をたてに内閣を崩壊させる。これをうけ、桂が[9 詔勅]を利用して首相に就任すると[10 尾崎行雄]や犬養毅らは「11 閥族打破・憲政擁護」を要求、よびかけにこたえた民衆が国会を包囲した。これを第1次[12 護憲]運動という。こうした盛り上がりを背景に、桂は53日で辞職した。これを[13 大正政変]という。

その跡を継いだ海軍大将[14 山本権兵衛]は軍部大臣現役武官制や文官登用令を緩和したが、1914年[15 ジーメンス]事件で責任をとって退陣した。

①新しい時代の到来(1912年7月[16 明治]天皇死亡→[17 大正]時代に)

[18 美濃部達吉]東京帝大教授・[19 天皇機関説]や政党内閣論を唱える(「憲法講話」)

(a) 帝国憲法下でも民主的な政治を進めることが可能ととく

②1911年 第2次[20 西園寺公望]内閣成立…[21 緊縮財政]をとき、行財政の整理をすすめる。

→陸軍[22 二個師団]増設を強く主張→1912[23 陸軍大臣]を辞職させ[24 内閣]を崩壊させる

理由:(b) 朝鮮併合に伴い、朝鮮に陸軍部隊を置く目的

②第3次[25 桂太郎]内閣…軍部、元老(山県ら)を背景に成立=[26 詔勅]で反対を封じる

↓  
憲政擁護運動(第1次[27 **護憲**]運動)の発生 = 犬養毅、[28 **尾崎行雄**]ら  
「[29 **閥族打破・憲政擁護**」を要求し、民衆が議会を包囲

↓  
1913 桂内閣総辞職([30 **大正政変**])、わずか 50 日

③[31 **山本権兵衛**]内閣成立・・・[32 **軍部大臣現役武官**]制や文官登用令を緩和  
→1914 [33 **ジーマンス**]事件で国内の反発が高まり、退陣

⑤1914 [34 **第二次大隈重信**]内閣成立  
二個師団増設を承認

## b, 第1次世界大戦の発生

1911年、中国で[35 **辛亥**]革命が発生、1912年革命運動をすすめてきた[36 **孫文**]を臨時大総統に[37 **中華民国**]が成立、民族・民権・民生を基本方針とするアジア初の[38 **共和国**]が成立したが軍閥の[39 **袁世凱**]に政権を奪われた。

[40 **1914**]年[41 **サラエボ**]事件をきっかけに[42 **第一次世界大戦**]が発生すると日本は[43 **日英**]同盟を根拠に[44 **ドイツ**]に宣戦を布告、山東半島の[45 **膠州湾(青島)**]およびドイツ領の赤道以北の[46 **南洋群島**]へ出兵、[47 **地中海**]へも艦隊を派遣した。

さらに政府は世界の目がヨーロッパに集中している中、1915年中国に[48 **山東**]省のドイツ利権継承、南「満州」、東部内モンゴなどの権益の延長などを含む[49 **二十一か条要求**]を提出、最終通牒をだし、これを強要した。こうした日本の行為は中国民衆の強い反発をかい、[50 **反日**]運動が高まりをみせた。こうした[51 **門戸開放**]に反する日本の動きはアメリカの反発をかったが、アメリカの大戦への参戦をきっかけに[52 **石井ランシング**]協定で妥協が成立した。日本はさらに段祺瑞に借款([53 **西原**]借款)を与え革命派をおさえるようとした。

1914(大正3)年、[54 **サラエボ**]でのオーストリア皇太子殺害事件をきっかけに[55 **第一次世界大戦**]勃発。

主戦場は、[56 **フランス**]東部(西部戦線)と[57 **ロシア**]西部(東部戦線)など

三国協商([58 **英**][59 **仏**][60 **露**]) + 日本・イタリア(1915)・アメリカ(1917)など

↓ ↑  
三国同盟※([61 **独**][62 **オーストリア・ハンガリー**]) + [63 **トルコ**]・ブルガリアの4カ国

※同盟には[64 **イタリア**]が参加していたが、1915英仏側で参戦した。

日本も参戦→極東などのドイツの拠点([65 **膠州湾**]および[66 **南洋群島**])占領